

地域再生計画の事後評価について（道整備交付金及び汚水処理施設整備交付金）

都道府県名	福井県	事業実施主体	福井県、勝山市	地域再生計画名	「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」推進計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	事業期間	平成22年度～平成26年度		

①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標		基準値		目標値		実績値		達成状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	評価		
①地域再生計画に記載した数値目標の達成状況	指標1	林道、市道整備による安全安心な道路網の整備促進（9箇所→0箇所）	9箇所	H21	0箇所	H26	0箇所	H26	○	道整備交付金を適用して行う事業により、計画どおり市道及び林道の整備を完了した。
	指標2	汚水処理施設の整備促進（汚水処理人口：H21末87.7%→H26末93.2%）	87.7%	H21	93.2%	H26	97.6%	H26	○	汚水処理施設整備交付金を適用して行う事業により、効率的な施設の整備を実施でき、目標値以上の施設整備を完了した。
	指標3	林業の振興と地域環境の改善（森林整備面積50ha増加）	—	H21	50ha増加	H26	59.50ha増加	H26	○	市道及び林道の整備に合わせ、的確な間伐・枝打ち等の森林施業を実施し、計画通りの森林整備を行うことができた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の発現状況	指標1	交流人口の増加（レジャー施設利用者の増加）	145.4万人	H21	159.5万人	H26	171.3万人	H26	—	市道整備により交通アクセスが年々改善され、それと一体的に白山平泉寺やはたや記念館ゆめおれ勝山、県立恐竜博物館等の魅力的な観光施設の整備やPRを行い、それを活かした事業を展開してきたことで交流人口は着々と増加している。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価				
特別措置を適用して行う事業			計画	中間年度(H24)	最終実績					
	市道整備事業		4,970m	4,528m	4,803m	今回の整備により交通アクセスが年々改善され、交流人口の増加に大きく寄与することとなった。今後、さらなる交流人口増加を図るため、各種観光施設のアクセス改善を推進するとともに、パーク&ライド等の渋滞緩和政策を効果的に展開していく。なお、整備量については、計画した事業費（交付金）で全ての箇所を整備することができなかったため、減少している。これについては、次年度以降も継続して整備していく。				
	林道整備事業		601	372.5	601	林道整備により今まで森林施業が困難であった地域について、充実した森林へのアクセス改善が図られ、計画どおりの森林整備を行なうことができた。未間伐地域はまだまだ存在しているため、引き続き事業を継続実施する。				
その他の事業	汚水処理施設整備事業		公共 15,470m 農集排3,280m 浄化槽 20基	公共 11,270m 農集排3,598m 浄化槽 5基	公共 15,954m 農集排3,598m 浄化槽 6基	汚水処理施設整備を推進する中で、汚水処理人口は9割を超え、目標以上の成果を上げることができた。今後も継続的に事業を実施し、最終的には市全域への普及を目指す。なお、整備量については、計画した事業費（交付金）で、より広範囲の整備ができたことから、計画と比較し増加することとなった。				
	勝山市エコミュージアム推進事業		豊富な自然・歴史・産業の各地域資源（遺産）を活用した市民団体提案型事業を実施する。			5力年で延120の事業が提案され、実施された。地域の各資源（遺産）を活用した市民団体による提案・実施のまちづくり活動は新たな展開を迎え、コミュニティビジネスとして地域の活力を生み出すものも出てきた。今後さらに地域の特徴を活かした市民団体による意欲的な取組みを支援していく。				
	史蹟等総合整備活用推進事業		白山平泉寺のガイダンス施設（総合案内）の建設や歴史的建造物の復元等を行う。			全ての整備を滞りなく実施した。白山平泉寺の総合案内施設となる「白山平泉寺歴史探遊館まほろば」が平成24年10月にオープンし、平泉寺の魅力を紹介する拠点施設が整備された。また、南谷の発掘現場においても僧坊の門・土塀が復元され、見学地に新たな魅力が加わった。平成26年10月12日には、まほろば来館者が6万人を達成した。				
	世界遺産登録推進事業		霊峰白山とその山麓に点在する歴史遺産を世界遺産とするための白山文化フォーラムや講演会等を開催する。			毎年フォーラムや世界遺産講演会開催する中で、白山や平泉寺の魅力に触れる機会を創出した。白山や平泉寺の魅力を伝える白山文化フォーラムは平成13年度から平成24年度まで毎年開催。世界遺産に関する講演会は、平成20年度から25年度まで毎年1回開催し、多くの方が参加した。平成26年は世界遺産に関連し姫神コンサートを開催した。				
	まちづくり交付金		勝山駅周辺整備や中心市街地の散策路整備等を行うとともに、市街地道路の融雪装置整備を行う。			全ての整備を滞りなく実施した。これまで実施してきた第1・2期事業により美しいまちなみの整備が進み、まちなか誘客数は増加し、観光地としての土台ができあがりつつある。しかしイベントの非開催時のにぎわいはまだまだ十分といえない。今後、まちなか整備をさらに進め、楽しく回遊ができ、交流が育まれるスペースの構築や快適な生活環境づくりを行う。				
	流域育成林整備事業		森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるための、重視すべき機能（水土保持、森林と人との共生、資源の循環利用）に応じた整備を行う。			間伐・枝打ち等の森林施業を実施し、的確な森林整備を行うことができた。林道整備により、今まで森林施業が困難であった地域について充実した森林へのアクセス改善が図られ、計画的な森林整備を行うことができた。今後も森林の適切な施業や林業従事者の育成を推進していく。				
計画外で独自に実施した事業	第20回環境自治体会議の開催		環境施策に積極的に取り組む全国54の自治体で構成する組織により毎年1回、各自治体の取組みを紹介するとともに、相互の情報交換を行うことで環境施策の推進を図る。			平成24年5月25～27日にかけて加盟自治体や研究者、市民、市内企業などを交えて開催した。3日間で延べ3千人が参加し、2日目に行われた11の分科会では美しい環境保全やゴミの減量化や環境教育などをテーマに、様々な事例発表と市内で取り組んでいる事例を紹介するフィールドワーク（現地研修）が行われた。全体会での小学校児童による環境保全活動の発表は参加者から高い評価を受け、市内外に強烈なインパクトを与えた。会議の開催により市民の環境意識がさらに高まるきっかけとなり、外来種駆除などの新しい市民活動などの広がりを見せている。				
④評価方法	福井県及び勝山市により、最終目標値の実施状況に関する評価・検討等を実施した。									
⑤事後評価の公表方法	勝山市未来創造課のホームページに掲載									
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、双方ともほぼ計画通りの整備を進めることができたことから、交流人口の増加や森林整備面積の増加等の効果を概ね発現できたと考える。汚水処理施設の整備は着々と進んでおり、今後も計画的に整備を進めていく。									
⑦今後の方針等	県立恐竜博物館等をはじめとした市内各観光施設への誘客が想像以上に増加したことから、次期計画において、県立恐竜博物館や白山平泉寺等の観光施設へと続く市道の整備を計画的に実施し、渋滞の緩和や生活者のバイパスとしての機能を果たす道路ネットワークの構築をより一層図ってきたい。									